

学校での学びが実生活の学びとなる、新聞を活用した授業の在り方

指定校 2 年次 飯山市立城南中学校 今井 悠太

(1) 本年度の N I E 活動の概要

本年度は、N I E の活動 2 年次ということで、「新聞というものの教材価値」をテーマとし、研究推進の係を中心に全職員で検討し、実践を行った。活動は、大きく二つある。一つ目は、生徒が新聞に触れる機会を増やすための、新聞特設コーナーの設置である。二つ目は、新聞記事と生徒の日常生活や学習内容との関係性を見つけ、授業実践を行うことである。本年度は、社会科を研究中心教科とし、「公民分野」において、新聞というものの教材価値を検討した。

これらの実践により、新聞に初めて触れる生徒、毎日ある記事を楽しみに読みに来る生徒、少し時間があるので新聞をめくる生徒など、生徒の新聞への関心が徐々に高まっている様子が伺えた。また、授業づくりに関しては、多面的・多角的に社会的事象を捉え、生徒自身の知識や経験と結び付けながら考えを更新していく生徒の姿が見られた。

(2) 本年度の N I E 活動をはじめる前の状況

本年度は、研究指定の 2 年次ということで、昨年度と同様に生徒の新聞利用の実態を踏まえながら、授業での新聞活用の可能性について研究した。新聞に触れる機会をもたない生徒が学級の半数以上いる中で、社会科の授業実践での新聞活用を中心とし、社会科の安川輝壘教諭を中心に全職員で社会科の授業づくりを共に考えていくことにした。

(3) N I E 活動の狙い（育てたい力）

- ・社会的事象や社会にみられる課題を自分事として捉え、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を高め、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を育成したい。
- ・生徒自身が、学びを広げたり深めたりするための手段として、新聞という存在が有用であることを実感してほしい。

(4) 公開授業以外の N I E の取り組みの状況

本年度は、無料で一定期間に新聞社 6 社の定期購読ができるということで、購読した新聞を生徒が自由に手に取れるコーナーを、校内で一番人通りが多いスペースに設置した。普段、新聞に全く触れない生徒も、興味を示して新聞を手に取り、眺める姿が見られた。また、普段は目にしない新聞に興味を持ち、毎日一面を見に訪れる生徒もいた。

(5) 公開授業などの活動内容

- 1 教科・学年・授業者 社会科（公民分野）・3 年 3 組・安川輝壘教諭
- 2 小単元名 「よりよい地域社会を目指して」
- 3 小単元のねらい

地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治のしくみについて理解させるとともに、新聞やその他資料を通して、住民の権利や義務、地方公共団体の課

題や課題に対する取り組みを学び、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。また、将来の飯山市を担う人材として、地理学習で培った見方・考え方や公民分野で学んだ公共の福祉と人権の視点をもって、今後の飯山市の展望を主体的に考察することで、より積極的に地方自治に参画する人材を育む。

4 小単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| ① 地方自治は、住民参加による住民自治が基本であること、地方公共団体の政治は、首長と議会の二つの機関を中心に行われていること、地方公共団体の財政的課題を理解し、その知識を身につけている。 | ① 民主的な政治と政治参加にかかわる課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ② 地方公共団体の政治の仕組みに関する資料をさまざまな情報手段(主として新聞やインターネット)を活用して収集し、収集した資料のなかから、飯山市に合った取り組みやその考え方を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 地方公共団体の政治に対する関心を高め、みずからがみずからを治めるといふ民主政治の基本的な考え方と、その考え方にもとづく国や地方公共団体の政治のしくみについて意欲的に追究している。 |

5 単元展開（地方自治）

| 時数 | 授業内容 ●活動 | 学びの視点 |
|-----|---|---|
| 第1時 | 学習課題 「地方の政治と国の政治の違いは？」 ●首長と議会の関係性が国と異なるのはなぜかの視点から、二元代表制の仕組みを理解する。 ●リコールやレファレンダムなど具体的な住民の権利について理解する。 ●振り返りの際に、新聞を活用する(リコール記事)。 | 地方自治の仕組みとして、国政に比べ、より民意が反映されやすい仕組みになっていることをおさえる。 |
| 第2時 | 学習課題 「なぜ地方分権なのか？」 ●地方分権を進めることのメリットとデメリットを考える。 単元を貫く学習問題 「これからの飯山市を考えよう」 | 中央集権化から分権化の流れや目的を財政の視点からおさえる。 |
| 第3時 | 学習課題 「飯山市が目指す街づくりを知ろう」 ●飯山市の第6次総合計画をもとに、市の町づくりの方向性を知り、より自分たちの願う街づくりの政策を追究する。その際より根拠になりうる(信頼性の高い)情報を自分で判断し、企画書にまとめる。 | 飯山市の街づくりを知り、生徒の願うこれからの街を考えることを通して、住民参加や地域をつくる担い手の一人として、追究・考察できるようにする。 |
| 第4時 | ●複数の新聞記事(教師選定)に三つの視点(少子高齢化、グローバル化、情報化)を踏まえて触れ、飯山市においても考えられる課題とその解決策を、思考ツールを使いながら整理していく。 ※本時 | |

| | | |
|-----|---|-----------------------------|
| 第6時 | ●各生徒が新聞記事の内容と飯山市の現状とを関連付けたシートを持ち寄り、複数のグループ交流を経て、再度自分の考えをまとめる。 | |
| 第7時 | 学習課題 「完成した『これからの町づくりの企画書』を友の意見を参考に再考しよう。」 | 地方自治への関わり方を自分事として考えることができる。 |

6 本時案

○単元のねらい

地方公共団体の実態に着目し、どのような課題があるか新聞記事を通して理解する。また地方公共団体が抱える課題が今後どのように変化することが望ましいかを考えることを通して、これから学習する飯山市の地方自治・住民自治につながる視点をもつ。

○評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| ① 地方公共団体の課題について、新聞記事を選び、読み取りを通して課題を理解できている。 ② 地方公共団体の課題のこれからの、「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」の視点から考えることができる。 | ① 地方公共団体の課題に対する対応策や解決策を考えていくことの必要性、またその手段に関して、個人やグループでの活動を通して、自分なりの構想をたて、表現している。 | 新聞記事を通して得た知識や見方や考え方をもちいて、身近な飯山市について、自分なりの考えをもとうとしている。 |

○授業展開

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 使用教材 |
|----|--|--|--|
| 導入 | ① 前時を振り返り、つながりを確認する。 ② 本時の学習課題を確認する。 | ① 生徒が本時の活動の見通しがもてるように、一度全体で記事の確認を行う。 | ①新聞記事 ②スクラップシート |
| | 学習課題 これからの地方公共団体の課題を、新聞記事を通して考えよう | | |
| 展開 | ③ 選んだ記事の内容が、これからの社会でどう変化するか予想し、自身の考えをキャンディーチャートに書き出す。 ④ グループに分かれ、順番に選んだ記事の内容を紹介し、これからの変化予想を説明する。 ⑤ 発表に対して、聞き手側はコメント（※1）を付箋に貼 | ③ これからの社会の視点として、前単元「現代社会」で学習した「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」の視点で考えるように促す。 ④ 4人一組のグループを目安とし、一人の発表時間はコメントを書いて貼る時間を含めて、3～5分程度をとる。 ⑤ コメントの内容は記事が「少子高齢化・グローバル化・ | ④付箋（※1） （ピンク色:少子高齢化 黄色:グローバル化 青色:情報化） |

| | | | |
|----|--|--|--|
| | <p>り、発表者のスクラップシートに貼る。</p> <p>⑥ グループ発表が終わったら、ワールドカフェでグループを変え、⑤の活動を行う。</p> <p>⑦ 記事を通して、自分の考え（対応策等）を、コメント付箋を参考にしながらワークシートに書く。</p> | <p>情報化したらどうなるか」のいずれに当たるか確認する。</p> <p>⑥ コメントする枚数は複数でもよいこととする。スクラップシートに貼り切れない場合は重ねてもよい。</p> <p>⑦ 正解はないので、自分なりの考えでよいことを伝える。</p> | |
| 終末 | ⑧ 本時の授業の振り返りを行う。 | | |

○生徒の反応（前時から本時まで）

前時、教師から提示された4つの新聞記事を読んだ生徒は、読み解く視点「少子高齢化」「グローバル化」「情報化」に関する記事の気になった部分に線を引き、これまでの社会の学びと結び付けた。

本時、生徒は、自分が選択した新聞記事に表れた三つの視点に関する部分から、今後どのような変化が予想できるかを問われ、再度新聞記事に目をやり、付箋に書き出していった。A生は、地方の医師不足に関する記事を「情報化」の視点で予想し、「オンライン診察や医師同士のコミュニティを地域に形成して、対応していくことができるのではないか」と考え、ワークシートに記入した。

そして、その後のグループ活動で同じ記事を選択した生徒の「外国の方が観光にくることで、地域にさらに診療の負担が増えるかもしれない」という「グローバル化」の意見を知り、「日本国内のコミュニティだけでなく、海外との連携もオンライン診療化できるとよいのではないかと、ワークシートのキャンディーチャートに記入したり、「AIを使えば翻訳も簡単で、色々な医師が利用できるかも」と友達と会話したりして、考えを更新していった。

このように、新聞記事を多面的に読み、様々な予想をもつ生徒同士が多角的に地方自治について考えることで、生徒の学びが深まったり、広がったりすることができた。

（6）成果と課題

本小単元を振り返ると、新聞記事という実社会に存在する出来事と課題を表現した教材が、教科で学んだことの根拠となり、生徒たちの学びをより深めることにつながる効果を実感した。そのためには、新聞記事の情報と学校で使用する教科書の情報の関連付けが重要となり、授業実践をする教師の記事の選択が肝心である。シンマイEGGの記事検索は、そういう教師の新聞記事教材探しの負担軽減、適切な資料選定には不可欠であったように思う。

また、このように実社会に触れる学習は、本校の総合的な学習の時間の学びにも強く関連し、社会科以外の教科・領域でも新聞を使った学習ができる可能性を感じることもできた。